



訓
幼
字
義

四

續
群
書
類
從
教
育
部
中
山
閱
了

仁仁
1.620
4也



〇四三
1620
4止



初 幼字義 卷之七

四端之心 九十則

四端と云ふは、孟子にありける。かくに具りたる善の
 惻隱。羞惡。辭讓。是れ此の四の心といふ。即ち仁義礼智の根をなす。
 惻隱と云ふは、物と不便なれども、羞惡と云ふは、
 りと云ふは、人のあはれむとあはむ。辭讓と云ふは、
 物へ辭退しゆるん。是れ此の四の心といふ。かくに具りたる善の
 善の。此の四の心は、人たるもの性を成るるものなり。故に
 孟子曰く、人たる有斯四端也。此れ有る四体也。又曰く、惻隱之ん仁と
 羞惡之ん義と、辭讓之ん禮と、是れ此の四の心といふ。かくに具りたる善の
 根也。此の四の心は、根をなすものなり。此の四の心は、

初 幼字義

卷之七

造道齋藏

と云ひひろげられた。仁義礼智の法と云ふこときまつて。これと
四端と云ふ。後世端と訓して。端と云ふの程あり。

宋初と云ふ。仁義礼智と人の性は、具する未だの程と云ふを
云ふ人も。四端の端と端、端と訓する。孟子の意は、^す後端端、
と云ふ物のうち口の程あり。仁の程あり、礼の程あり、
と云ふ。義の程あり、と云ふ。羞惡の程あり、恥の程あり、
と云ふ。辭讓の程あり。智の程あり、と云ふ。を程の程あり。

たんば物の中ふあり、その口の程あり、と云うごとく。集註
云。程有物在中。而端見於外。と云あり。を程の字と云ふのこ
と云ふ程あり、と云ふこと。多々の端、この義は、^と云ふ。孟子と云
註は、^と云ふ。仁義礼智の根が、と云ふことあり。たんば、^と云ふ

揚つた本も。その中二端あり。そのひびくと。洪也。その^と云ふ
論滴、^と云ふ。それゆへは孟子は。若た^と云ふ。始。泉始
達して^と云ふ。物の小あり。次小流、大あり、と云ふ。一
口のあり、と云ふ。義にあり、^と云ふ。

端の字と端、端と訓する。と云ふ。端、^と云ふ。訓する、^と云ふ。
と云ふ。そのいふは、^と云ふ。義のなごり、^と云ふ。は、^と云ふ。人のさ、^と云ふ。
後世のさ、^と云ふ。さ、^と云ふ。さ、^と云ふ。仁義礼智の義も、^と云ふ。
と云ふ。端の字の刻と。と云ふ。と云ふ。相違するものあり。さうが、^と云ふ。
の不可認なるもの。人の徳の上は、^と云ふ。あるものにて、^と云ふ。
下の人、^と云ふ。上下のほ、^と云ふ。故、^と云ふ。と云ふ。のさ、^と云ふ。
と云ふ。仁義礼智をあり、^と云ふ。先仁の、^と云ふ。然れ、^と云ふ。意、^と云ふ。のん

削り字義

二造造齋藏

二造造齋藏

二造造齋藏

の仁より遠く或一人よるび或一家よるび或一國天下よるび
たふ久近のたひありしるごとく人の利を以て得恩徳とせしむる
と仁より遠く或一人よるび或一家よるび或一國天下よるび
の仁より遠く或一人よるび或一家よるび或一國天下よるび
有不忍人之心斯有不忍人之政不忍人之心則惻隱乃
こころあり不忍人の政は即仁あり徳をば天下をむむひはくごの
仁とせしむる惻隱の心よりひるめしるそのあり惻隱の心は即
仁の根を源頼あり。為惡辭讓を非の心とほごころあり四端
の端と端卒の義ふしるこのゆゑあり

後世の仁を以て端緒と割ごころは後世の仁は体用の説とせし。宗
然不初の心と仁の存体とを未發の性あり思慮運用未あり
とるごまを以て用とす。即惻隱為惡辭讓を非の心とせし。發の情
あり。げの性は具しる。仁の理ありありとせし。惻隱乃情と
たり。我の理ありありとせし。為惡の情とあり。ごまふとて
四端の端と割して端緒とす。仁義と未發の理とす。これいと
のぼるご端緒と割ごまを以てわかつご。古人のまゝ進反生れたの
義別あり。并せごんありごご

擴充とす。孟子のりあるごありご。宗相公此ののりけ
不仁先孟子の不端擴充とす。或及むごご。或のまご
ご。或の推ごご。ごご。彼ごご。ふありごご。大よごご
あり。たご。小四人の書とあり。ごご。めふいごご。ごご。ごご
消息ありごご。後よ。真善行の諸端とごご。海ごご

一。四端の心と物と推及し。次多寡と長短と。是を
 擴充して後世の擴充との物類を拂ひさす所の曰ふ小場の
 廣く狭くありたるは鏡のくもりとさうふ。一。をら一。すは
 一。すより一。すありて。一面の鏡とくくく。みるく。く。く。その
 仁義礼智と性の程も人欲と鏡のくもりのくくく。にねん
 しく。く。く。と拂ひさすの次多寡と小廣くあると擴充といふ。
 孟子集註は云。此推廣の充滿を本然之量。則ち日新又
 新將有不能自己者矣。とあり。物学の仁義禮の擴充といふ
 たるは長短の義は端とさす。色は若くはひろくはく。孟子
 の意はあり。

充の字乃刻集註は充の溢也とあり。右註は充大の意は註
 での。そ又義あり。集註の意は仁義礼智の程を本一定とあり。人
 小物類を拂ひさすは物の量と充滿。一。又四方の鏡のくもりがく
 ちりとする。く。く。の二。又四方小くもりの充大。刻とさす。は
 本の成長。一流のの色行とさす。く。次多寡は。一。はの。は。
 方。を。の。と。あり。後。不。過。子。と。考。す。小。尚。得。を。養。を。物。
 不。長。と。あり。く。く。の。人。の。善。よ。く。く。く。次。多。寡。増。長。と。さ。す。
 の。あり。は。の。あり。の。は。あり。

充の字。孟子書中に多くある。物とく。く。と。は。け。を。拂。ひ。さ。す。
 の。あり。謂。れ。有。而。取。之。者。盜。也。充。類。は。長。之。盡。也。と
 あり。此。意。は。取。り。さ。す。物。と。さ。す。と。盜。賊。と。さ。す。の。大。小。の。け。の。
 ち。き。と。さ。す。の。有。り。の。類。と。さ。す。の。け。の。ひ。ろ。く。の。小

夫多也。此を教見と云はるなり。彼を物と云ふは、
 め偶ありと云はる。日々にあることあり。彼を必
 教見と云はる。と廣くばるる。はるるは、
 日多し。諸孟字義云。若此則不見。當測隱羞惡。辯讓之邪。
 者事。則測隱羞惡。辯讓之邪。公不由而教。明矣。然而
 當測隱之事。日間無幾。初終十教。日亦或無有。至於羞惡
 辯讓之邪。公不知。若此。則用功之日常少。而曠廢之日
 常多。雖欲用擴充之功。奈何由而得乎。且又欲擴充測隱
 之一端。於將有力不足之患。况欲於四端上逐一擴充之。則將
 有尤顧不暇。無暇不堪之患。孟子云。素固不若
 此。之近と云あり。且又孟子。若夫遠庖廚あり。その仁
 と教への近あり。と。教見と云はる。庖廚の側
 又住居して。日々に小屠門の殺多し。と云ふことあり。彼ら
 に庖廚と遠くとも。ある行を。教見と云はる。と。ひろむ
 小まゝと云ふことあり。又云。見無欲害人者。仁不可勝用
 也。と。害をうするの欲をうする。仁を小教と云ふ
 ことあり。彼を四端の教見と云はる。と。仁の具あり
 ことあり。と。諸事と云はる。と。そのありと云ふ
 及せしあり。

孝問の事。孟は。孝の擴充の一事。小からく。その名曰く孟子
 小を。内也。と。諸事の聖賢の事。皆此のふあり。故に
 ことあり。そのことあり。と。仁の具あり。と。

良知 良能 九四則

良知良能といふ。亦たわめれた孟子のつら。良の見直
といふ註すれ物といふとあるのたつ。何のよれを付のま
あるどの善と良といふ孟子より良貴と良んといふ。論語
小温良恭儉讓といふ。何といひいふあり
良知といふ。生れあつたといふ。良知といふは生れあつた能
といふ。何とて同徳をいふといふ。孟子
曰此致知也。致知といふは性善と致四端と致知といふは
これ。だといふと致知といふは人の心よむしこの家
の良なりといふといふなり。たまたあり。な故に良知良能と
直に仁義といふといふ。親親と親親と親親と親親といふ
として天下の善といふあり。在りてなりといふ。

凡人生のこころを格古を別ありといふといふなりといふ。
何のよれをを良と良能といふ故に孟子曰んば行ふ不
能者其良知也。所不能而知者其良知也。此詞兼
一。只善のこころの二。三。朱子の時良知も取つて自
然のよれをいひ、善といふといふ。孟子といふ良能良
能也。たまたといふ。揚りたといふ。孟子といふ
これ。仁義の心を知るそのよれといふ。根の中。これを
いふ。孟子の自ら生れ付れありといふ。指し先。人よ仁義
と行ふといふ。たまたあり。故に又曰。致知を善。不能も
親を長也。無不能也。行を長也。孩の笑也。註して知を

てあり。小兒の所物を得いざだもあつらひて人抱抱せりいなり
 て。是と孩抱の事。孟子の「孟子の」の「あつらひけぬ」の「世間」と
 あひひつゝの「いざだもあつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の
 事とあつらひて孩抱せりいざだもあつらひての「あつらひて」の
 けけ焼又ふれ。人の中性もあつらひての「あつらひて」の「あつらひて」の
 の孩抱の事。いざだも世間の「あつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の
 かみもや親とせり。か一人あつらひてと孩抱とふり。そ
 れ人の中性の事。あつらひてとせり。この仁義とあつらひての
 あつらひて。此良知と推しひろむらあつらひての「あつらひて」の「あつらひて」の
 人の「あつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の
 あり。故此事の終り。親親仁也。致長義也。無他達也。此也。
 し。是を我をぬらあり。孩不後世の良知とあつらひて。名別の
 り。なつらひて。孩抱とあつらひて。孟子の「あつらひて」の「あつらひて」の

陽明も致良知の語を傷ひ。當る自己一人とあつらひてと名
 し。やうそ又るふらとあり。あつらひての「あつらひて」の「あつらひて」の
 竟然に見性の語はあつらひて。孟子の「あつらひて」の「あつらひて」の
 しての孟子はかじ。致知とあつらひての「あつらひて」の「あつらひて」の
 しての致良知とあつらひての「あつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の
 物と先覺して。凡そ下の物も孩抱して。くくくを孩抱せり。天
 下の事とあつらひて。天下の「あつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の
 けとあつらひて。あつらひての「あつらひて」の「あつらひて」の「あつらひて」の
 繁多あり。受用不切あり。王氏此語をたれ。致知とあつらひて

尤ふあふど。自この一とゆふふとゆふ。自ら善程ふき
と。物の上は然れ。無つよを程と執るふあふど。人々の身良
知の本心^備ありあり。そとみづくと致良知とありあり。王氏の
名。繁文の弊をたられ。簡約せらる。そを意中とふ親
切あり。然れども聖賢の本名と考つるふ。大學は致知といふ。
他心となくして。家國天下と。物の先後本末と。いさ^ま
つれ。あはさるよあはさるやうふとらるやうあり。くり。この心定か
ふあふつ。朱子の説なう。本名とんて。又良知のゆひ。先
に論ぶる。朱子のゆひ。致良知といふ。本心とみづくるゆひ
あふらあふ。そ上孟子の良知良能。知能とあひあがて
あふらふ。王氏良知と推し。ひくよ良知とらうとゆふ。作相
とせらるふ。又とらるやう

才 凡三則

才とい性の能あり。孟子集註。才猶材質。人々の能也。此註を
ゆらあり。たう大本のう。株梁の用ふたもの。人の
とあふ。このもの。たう。故は才質。才幹。才熟。用と。又
世の智あつるを才といふ。才難と云。才不才といふ。と。皆才能
い。つらるる用とあり
孟子云。性善為不善。非才之罪也。程子云。才稟於氣。氣
有清濁。稟之清者為賢。稟之濁者為愚。此二說。何ぞ
と。朱子云。以才。程考之。程子為密。此云。孟子の
才。然の性よりあつるものとて。故は才に不善あり。程子

志と云ふは心と云ふなり。善惡の心のことあり。又心と云ふは
志と云ふなり。又云若使為不善不善
才之羅也也と云ふ

志 九 三則

志と云ふは心と云ふなり。善惡の心のことあり。又心と云ふは
志と云ふなり。又云若使為不善不善
才之羅也也と云ふ

志と云ふは心と云ふなり。善惡の心のことあり。又心と云ふは
志と云ふなり。又云若使為不善不善
才之羅也也と云ふ

志と云ふは心と云ふなり。善惡の心のことあり。又心と云ふは
志と云ふなり。又云若使為不善不善
才之羅也也と云ふ

意ありと云ふあり。易ありと云ふ言不盡意あり。何
 も一にあり。春秋と説きの^誅誅意の教あり。その後時の礼は賦子の不他は表
 たるやうあり。根のありと云ふあり。ことと敗致と云ふと誅と云
 り。又詩人のことと云ふ。ある者のありと云ふあり。いまふと云ふと推
 振と云ふ意。雪意といふ。又まおた今文章の内。兼註と云ふは
 天地の意。聖人のことと云ふ人の意。おのの類。何と此方よりた
 意とたはれ。求ることあり。その由文字義を^用用し。推考^意意
 らるあり。想像と云ふことあり。往來計較と云ふ^意意あり。これより
 然と云ふ。地と云ふ。何と此とけあり。又人色と云ふ。これ
 は^意意の儀とあり。さ^意意と云ふことあり。記憶の儀とあり。肉
 目ありと云ふ。胸臆の儀とあり。文字の事と云ふ。何を胸中
 たくと云ふ。地と云ふ。ありと云ふ。ことあり。ことあり。たぐらる
 ことあり。多利と云ふ。彼を合と考らる。底の下の義。たぐら
 或と。章句の所^也也。註と云ふ。註と云ふ。人の兼註と云ふ。全
 多ふ。その意の字。龍授と云ふ。かたある。一曰。後と云ふ。文字の
 正義の古本より世間は熟し。用ひ。いあり。ことあり。何の
 せんともあり。自ら符合し。ことあり。一曰。かたあり。有學と云ふ。學
 のんことあり。平生のことあり。ことあり。経書の訓義と云ふ。あふ
 日本ありと云ふ。學問のけいあり。い。漢古の文字せよ。廣まると
 ことあり。千有。竹奉ふ及つ。ことあり。世間の學問せらる人のこと
 新と云ふ。ことあり。義ありと云ふ。多し。今の人のこと。考む。意

されは論じざるありや。一のねのまこととせざる。安排計較の
 けりたることとせざる。又同意のてし今くあれたるありは
 聖人の**意**天地の意といふをまじり。文字中意といふは
 今くあれたることとせざる。曰まじり後。意といふは
 今くあれたることとせざる。必固執もまじりや。のまじりての物
 とありては**思**の**入**をいふこととせざる。けりるをみりれ
 言がたしむる。是れは**一**をいふとせざる。賢人君子の上は
 是のまじりあり。後をいふは**以**疏ののまじり。夫子はこの四
 のまじりありや。けりる。のまじりていふこととせざる。いふ
 とく。意をいふありあり

或人云。大學、孔氏之遺書、辨の中に、誅之の事と雖して、論語
 の母意、一に二をいふこととせざる。論のつ。大學は、
 のまじりけりていふこととせざる。おののまじりけりていふこととせざる。曰。
 是ハ早年晩年の善はあり。とあり。は誠意といふこととせざる。一向は
 一に二をいふこととせざる。辨のまじりあり。晩年の
 見よ。孟子の思誅といふこととせざる。一に二をいふこととせざる。いふは定
 本よ。このまじりあり。たが定本よ。一に二をいふこととせざる。識
 有
 或云。後ハ誅意の事。畢竟聖人の善ふたがことあり。曰。誅
 意といふは、一に二をいふこととせざる。母自欺といふこととせざる。好善好
 友。要必要。要具。善と善。要必要。要具。人の善
 より誅よ。とあり。論語は誅といふこととせざる。いふは、
 一に二をいふこととせざる。

仁義の功用とあるは、一物あり。仁義と有らば、別は浩然の
氣のふくむありと故曰。是為氣也。配義与志。無是馁也。又云。
是集義所生者。非義襲而取之也。此孟子の仁の妙なり。

養氣の仁義の功用とあるは、一物あり。仁義の志の
と志は、配義与志と云。集義所生と云ひは、仁及び志。大抵
人の心を初して、其を養ふなり。不仁の心ありとも、義はたがふ
るは、一物あり。養ふなり。是ら義とのたまふなり。

浩然の氣とあるは、一物あり。人として、是らあるあり。養
ふは、何ぞと云ふは、一物あり。孟子の言は、
孟子の初とあるは、一物あり。又孟子の難言とあるは、
よく、言はざるものなり。孟子の人の心と付るものも、
よく、言はざるものなり。畢竟、孟子の言は、
て、たゞと初とあるは、一物あり。孫子孟子の言は、
初と有るは、一物あり。孟子曰有る言は、
善養吾浩然の氣と云。此の言は、
孫子。夫子加齊之卿相、得此乎。雖由此霸王不失矣。此
則初と有る乎とあるは、一物あり。抑も、
のあり。齊の公の相位は、
を、
とあるは、一物あり。初とあるは、

剛刀守義

卷之七

二十 惺惺齋

こと。是皆血氣の勇なり。これ。も極のふあふをいふこと。お後
 小をいふ。あり。極をいふ。いふこと。お後。のふあふ。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ともふわらう。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。

唐の本朝の。吾は。吳元。隋と。いふこと。大功と。いふこと。唐が。將
 あり。胡。廷より。温。帝史より。文。儀と。糾。さ。れ。膽。落。と。いふこと。そ
 り。軍。陳より。あ。れ。と。いふこと。胡。儀。小。案。内。あり。いふこと。初。と。いふ
 こと。いふこと。又。推。方。初。勝。の。倍。涼。山。曠。野。の中。と。いふこと。往。來
 こと。いふこと。猛。獸。と。いふこと。叔。賊。と。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 事。居。の。いふこと。いふこと。平。生。小。事。と。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 の。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。又。刑。官。の。いふこと。いふこと。小。重。要。の。死。囚。
 法。場。の。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。平。生。小。事。と。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 の。いふこと。いふこと。天。性。剛。強。あり。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。不
 初。と。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。又。程
 こと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。畢。竟。あり。いふこと。いふこと。いふこと。

川刀... 卷之七... 三十三... 性體齋藏

そのハ。詞はさうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 のハ。詞はさうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 あつ。さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 及而不端。雖福寬博者不端。自及而端。雖千善人者。彼を
 しろと。此を極あり。極をいふと初まわし。た初めぬと
 極し。極ふあつ。さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 仁義の功用といふあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり

を賢の書。浩然之氣。説として。さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 たあり。論語は内省不疚。其何憂何懼。あり。中庸は内省
 不疚。無惡於志。あり。何とて。賢ハ。かをさうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 く。あつ。さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり

子。妻はさうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 浩然の氣と書つ。いふと初まわし。た初めぬと
 あり。賢ハ。かをさうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり
 さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり

孟子は。我知言。我善養吾浩然之氣。とつ。浩然の氣と書
 あり。知言といふ。集註は。知言といふ。盡心知言。天下の言の程
 とさつ。その非得失の極。ゆへ人と志。極をいふと
 ふん。得て。さうさうあつ。ひらきもたうふ。ふ前ははらあり

とひおどの類あづ〜。その山の性もあま〜と云ふものあり
 とも。さういふと云う。新と云うやう〜。さあ〜と云うそふ
 か。日夜はるるのめぐ〜。萌葉のめぐ〜のあま〜と云ふ
 上は牛羊の牧場〜あり〜。ひは〜と云う〜。濯〜と云う〜
 あり〜。故は孟子此章のす〜め。牛山の性もあま〜と云ふ
 性善あり〜。さあ〜と云ふ長〜と云う〜。さあ〜と云う〜
 とも〜と云う〜。畢竟仁義と云う〜。夜氣中仁
 義と存〜と云う〜。夜氣と存〜と云う〜。集註も。夜氣と
 生日以寢薄。而不足以存仁義之良心〜あり〜。さう〜と云う〜
 あり。後不園の李延平の説〜。夜氣金清〜あり。又湛
 然虚明氣象自可見〜あり。その〜と云う〜。夜氣〜と云う〜。注

〜して。その小工と付〜と云う〜。集註のす〜と云う〜。
 集註も。日以寢薄〜あり〜。夜氣と云う〜と云う〜
 子と云う〜と云う。夜氣〜と云う〜。仁義と存〜と云う〜。明〜
 也。後〜と云う。先傷の所謂仁〜と云う。無欲の境と仁〜と云う。これ
 也。此章の註も。例〜と云う。今〜と云う。さあ〜と云う。
 楚辞遠遊篇〜と云う。一氣孔真〜と云う。於中夜存。虚以待〜と云う。無為
 と云う。先。庶類以成〜と云う。此徳〜と云う。朱子の註も。仁者當中夜
 虚静之時。自存於己。而不相離〜と云う。如此則於應世〜と云う。皆
 虚以待〜と云う。於無為〜と云う。先。而庶類自成。若化自也。盖廣成子〜
 若黃帝。不過如此。真仙〜と云う。要訣〜と云う。此〜と云う。用〜と云う。聖王
 のさう〜と云う。の語〜あり。李延平の説〜と云う。さあ〜と云う。の語

うらうらくくくくく。をををのまよまよじり

訓初字義卷之七終

訓初字義卷之八

聖賢 九七則

聖賢といふは。聖の名あり。賢の名あり。聖は。人々の名をばうらうら
 あやまらあり。書經の洪範小治事と叙て。肅人。敬。聖。と云。
 周禮よ。六法とあり。知仁を義忠和と云。論語に。若聖と
 則若聖教と云。何と云。仁義忠和と云。無極也
 と云。人々の名あり。聖と云。賢と云。仁者人といふ。は。聖の名
 といふ。仁は。人といふ。仁者人といふ。は。聖の名
 論語。聖人吾不得見也。夫。得見者。子者。斯可矣。と云。
 是より。聖人といふ。若き。いふ。は。聖といふ。聖子
 又伯夷は。早柳下惠と古の聖人。と云。ま。益と不恭。我

る所の名あり。その如きことあり。明なれば、田人
為學、忘れんを標準。若し循は、不也。自有好至矣。その言を味
つ。古書よとつ。君もよとつ。しれ。聖人といふると。けりもあ
る。

後世の賢人賢者といふ。其階級のあること。その書に必拘
とふ。あはれ。孟子の伯夷と聖人を稱し。論語の古の賢人也といふ。
孔子の賢と。事我の堯舜より賢ありといふ。此は。諸君子。我を論
王充。論衡の說を偶に合すと。又韓文曰。孟子雖賢。聖不得位
といふ。此類あり。といふ。

聖人の徳を稱するもの。論語の仁且知也。孟子既聖といふ。
の無きもの。仁にさう。認むといふ。後記の作者謂之聖
述者謂之賢といふ。大學章句。序曰。後明睿。知能也。性とい
つ。朱子の諸儒の言あり。畢竟盡天理を極。每一毫人欲
私を境界と聖人といふあり。此内中。仁且知といふ。聖人の
全體を稱するといふ。孟子の知者。盡不知也。仁者。盡不仁也
といふ。其下。小堯舜を。知堯舜を。仁といふ。その如きこと
いふ。分明あり。その仁にさう。いふ。徳の廣く物とゆふ。も
後記の作者謂之聖といふ。礼樂を制作せり。と。上よりいふ。
とつ。智の一端は。ほそく。後明睿。智といふ。けりあり。
盡す。無人欲と聖人といふ。聖人の心と明鏡といふ。一
点のくも。なく。清淨虛明あり。その如きこと。聖人の一圓。天
理とつ。けり。た。あり。何を佛老の說より。か。は。さ。ま。り。けり。聖

道も小人との類。何と位のもるふ然といふ是と云ふは、
しして人のよりありは然といふ。論語は君子周端而小人比而
不同との類ある。何と位と徳は然といふ。故は徳傷り。
在位有徳の差別あり。その上後世より人徳は。有徳の稱たる。
る亦多くは在位は然といふ。その論語ありのより。
一は多くは其のより。諸侯大夫の示しなまあり。在位は
然。君子とのよりまると多し。

君子小人の在位は然といふ。徳をも下小ありの人多し。
氣象老成ありし。智教分別あり。人の多しとあり。その人
は位ありし。徳は徳とあり。その人徳は徳とあり。其の
一たるものあり。又そのよりふりつらつら。徳は徳とあり。其の
て下人の氣象あり。その位はあり。その徳と又あり。小人と
し。その人あり。その徳あり。賢不肯。善人不善人の
ははらり。

君子とのより。右註疏の中に君一方而子陰万民。此説と
る。その徳あり。子の字は虚字あり。後世の善字のより。
右の名は。見たり。王前との君子齋記。天子諸侯謂之君卿
大夫士謂之。その後世の説あり。その方あり。右より人と稱
し。君子とのより。多くあり。その徳あり。その徳あり。君子と
稱するものあり。諸孟子を義此註は。君子とのより。
人の學問のより。君子のより。小人の域は。君子のより。は
るふあり。故に論語は。君子小人の初述あり。並舉あり。其相

及し。うらうらあつてのふつ。独り今の人々もとてこれ
 を君子とて。さぐまて君子とふて。面々の其をふあ
 どとせよ。小人とて。又甚あしく其の思送無りて。面
 のあつて。そのも。そ皆あやあり。君子との。その
 べり。その人との。今日底の人面の上は。然れ。世
 あり。も。御の白あり。老。皆君子位中の人なり
 又偏狹陰徳。知。自。自。他。代
 善。その人との。皆小人。中の人あり。何とを
 己のふ。其を。自。自。其の

學 九十則

學の人の。白虎通。論語集註。學。言。白虎通。學
 也。覺悟。所。不。知。也。論語集註。學。言。學。言。白虎通。學
 下。文。也。後。覺。者。必。效。先。覺。之。所。為。也。一。也。そ。り。と。り
 意。と。も。ら。あ。り。と。り。の。あり。と。り。學。の。字。の。あ。り。と。り。と
 の。意。と。り。稱。あ。り。せ。れ。字。義。と。り。ゆ。ら。は。た。義。字。義。は。學。者。效
 也。覺。也。有。所。效。は。覺。悟。也。註。と。教。と。り。の。中。あ。り。と。り。と
 の。注。也。と。り。あ。り。と。り。等。勢。と。り。と。り。覺。と。り。と。り。と
 と。あ。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と
 ち。と。り。學。人。も。び。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と
 時。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と。り。と

あり。一篇の文章と作れ。後世のいふ。その中にいふこと
く。つらあ。ものあり。や。彼を。と。ま。は。脈。程。の。た。ひ。あ。り
や。あ。ら。と。辨。じ。て。み。づ。ら。ふ。信。用。と。う。た。ら。る。な。た。ひ。の。と。あ。や
ま。る。の。多。く。人。備。日。用。と。目。當。と。う。た。ら。る。聖。人。の。乃。の。正。乃。ら
し。ま。る。く。聖。人。の。言。ひ。と。規。矩。し。は。つ。と。の。諸。子。百。家。の。言。非
得。と。う。た。ま。ま。あ。り。と。あ。く。我。一。人。の。科。考。ふ。く。見。識。を。立
つ。

論語「君子学而不思则罔。小人学而不思则易使也。」あり。蓋し
て。若。用。之。則。安。安。る。業。を。ま。る。く。漢。之。則。孝。を。忠。信。と。の。聖
賢。の。書。も。学。問。の。志。と。の。ま。る。く。あ。り。の。後。世。の。後
世。学。問。と。う。た。ま。ま。あ。り。と。見。て。う。た。ま。ま。あ。り。と。博
奕。飲。酒。驕。を。戒。め。る。一。文。不。通。の。人。は。せ。り。又。世。上。は。ま。る。く。ま

問。せ。ら。る。人。は。平。生。の。業。作。ら。ま。る。く。の。ま。る。く。あ。り。の。ま
問。と。ま。ま。文。字。は。通。じ。た。今。と。あ。り。の。利。益。あ。ら。と。そ。れ。か
の。あ。り。と。か。ん。が。て。感。ん。が。と。換。え。て。学。問。と。う。た。ま。ま。あ。り。
あ。ら。の。最。初。ら。目。あ。り。た。ひ。も。あ。り。博。奕。飲。酒。一。て。又。母。の
苦。し。と。う。た。ま。ま。あ。り。世。上。無。学。の。人。不。肖。の。子。は。家。あ。ら。と。ま
と。あ。り。学。問。と。う。た。ま。ま。あ。り。学。問。の。罪。は。あ。ら。と。ま
学。問。と。う。た。ま。ま。あ。り。家。出。ら。と。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ
と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ
あ。く。ま。ま。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ
ら。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ。ら。と。ま。ま。あ。り。と。あ

子問をばふふとて。彼ふふとて。子路の性。人々と異なり。
 其の性。未だ付あまらざる。と逃げ。丹朱の性。過る物。てひる。
 生はあまらざる。とて。まふ人材と甄陶と。あまらざる。
 まふ。小蒲葺の性。あまらざる。董安子。生付。
 る中。あまらざる。その性。西門豹。生付。
 ありと。あまらざる。今古の美。佳。
 氣變と。變化と。あまらざる。要する。
 の。あまらざる。た。あまらざる。
 松の。あまらざる。あまらざる。
 て。諸人。あまらざる。
 能れ。あまらざる。

諸弟子の服。齊。あまらざる。
 宰我。子貢。あまらざる。
 小偏。あまらざる。
 て。あまらざる。
 唐虞。あまらざる。
 世の。あまらざる。
 時の人。あまらざる。
 つ。あまらざる。
 上。あまらざる。
 下。あまらざる。

鬼神のついで。大地山川宗廟祭祀の具。を述べて報く。ある所の
まあり。たまひて他のもうもよと也とある。諸侯封内の山川とある。大
夫宗廟とある。士庶人の祀とある。何をそれ。の分限のあらざるもの
あり。その内先祖の^聖の^聖なり。士庶人までも。世教のあらねるも
重^トなる事とある。ちよ恩の^まなる事とある。のあり。又古
より聖帝の賢人君子の世に治法ある人の先祖のあらざ
る事とある。何をその正祀とくべきか。ひはあらざるや
陰祀とく。聖賢の所親鬼神のこもりあり。後世鬼神の説ゆら
くあり。

周禮大宗伯の職曰。中^聖建邦之天^聖社示人鬼之礼^聖とあり。示
社と曰。後世の祭統の篇も。山林川谷丘陵。社を言。為風

雨見怪物皆曰社。又云。人死曰鬼。鬼神のこもりをいへる也。社
又鬼^社也。社伸也。と云。説あり。社。音とあり。社。陰陽社伸
の^社也。鬼神の小人の上を社とく。又云。社は。土壇。為鬼と
く説あり。社。祖る所。土を限らる。壇と作らる。と
鬼とく。社。壇と作らる。土の神とく。と云。又庶士
庶人無廟。死曰鬼。この世に^教の^教位を^社に^社也。廟とく。と
ざる。なりて鬼とく。社。社を^社に^社人^社の^社とく。と云。中庸
後揮。貴曰社。賤曰鬼。此言ふなり。社。註せら。又後世は。鬼魂
と鬼とく。魂氣と社とく。説あり。ちよその^社の^社。何を社は。鬼
具あり。考ふべし。

論語。邦を鬼而を^社也。と云。註は。鄭玄の説。人死曰鬼

鬼神如神在也。孔安國の註云。百神といふは。
 天地の下の必しも礼記の註より云ふべし。
 蓋して文意を考へて。後漢の注に
 天地の下の必しも礼記の註より云ふべし。
 蓋して文意を考へて。後漢の注に
 天地の下の必しも礼記の註より云ふべし。
 蓋して文意を考へて。後漢の注に

化の妙也。その從來も。亦あり。身も。亦あり。
 鬼神者二氣之良能也。朱子曰。良能を言はば。
 乃理なり。性なり。有安撫指。二氣則陰陽。
 良能自ら具也。陰陽二氣の從來して不思議あり。
 朱子曰。以二氣言。則鬼神陰之靈也。
 神有陽之靈也。その程張の註より云ふ。
 説と合はせられしものあり。何れをも中。
 庸章句に詳あり。大全に朱子遷の註より。
 自造化言。専言也。主宰祭祀而言。
 是偽言也。仁は偽言。専言の註あり。
 鬼神の内も。天地人物も。
 一いつ。宋初の儒先鬼神の註あり。
 程張の註。陰陽造化の靈と鬼神といふ。
 容易ふべし。

されしあり。予らうりて地をうり。その佛者二世痛廻の説よあて
 かりしあり。予らうりて佛者人の識しその陰陽造化よ
 うりて。各人本修の善悪よりうりて。或は物あり或は人あり
 て。二世十界の間は流轉とて説り。そと破るてめよ。鬼神の陰
 陽造化のあり方とてうりてありし。ゆゑを後とてまゝとてうりて見
 たり。程子曰。佛氏不識陰陽晝夜死生古今。安得謂形而上
 與聖人同乎。葉采の註よ。今之流轉。二氣之屈伸。歿氏推
 編也。いふ張子の説よ。此地をひてうりてあり。後を程張
 の説よ。のうりて。鬼の鬼神は然り。日月晝夜の徳本。草木
 の榮枯。人の呼吸とて鬼神とてあり。そも陰陽とてあり
 たり。いふを鬼とて。聖賢の書よそと鬼神とてあり。とて。

問事。鬼神。致鬼神。而遠之。中庸。鬼神。之為。盛衰。乎。と
 一の類。何をもと。天。地。人。鬼。を。祀。する。事。の。本。體。と。て
 たり。孝子。信。之。靈。陽。と。て。一。の。説。陰。陽。と。て。あり。と。と。

一の傷者の論あり。諸孟字義よ。とあり。とあり。とあり。とあり。

一とあり。風。多。相。象。の。善。と。鬼。神。の。善。と。あり。とあり。とあり。

一とあり。或曰。日月星辰とてあり。及。昨。風。伯。と。て。あり。とあり。とあり。

一とあり。人。暑。と。して。うり。皆。を。祀。の。徳。あり。徳。を。造。化。の。迹。陰。陽。の。具
 たり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。

一とあり。日月のめぐりとあり。風。多。相。象。の。徳。本。と。あり。とあり。とあり。

一とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。

たふ言はれず。不思議ありて。同日に又耳に。さうさう
らとらして。あゝと。そのさうさうあつて。人の畏敬奉承と
を。さうさうあり。後。不問。又。さうさう。耳。さうさう。人
と。さうさう。物。さうさう。人。許。さうさう。在。さうさう。先
た。在。さうさう。鬼。神。の。法。の。さうさう。あ。さうさう。お。さうさう。形。整。か
く。さうさう。人。の。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。視。而。不。見。
能。不。聞。食。白。不。知。味。諸。皆。行。た。さうさう。畢。竟。竟。向。の
さうさう。云。物。の。理。定。さうさう。張。さうさう。鬼。神
さうさう。の。久。名。さうさう。陰。陽。の。さうさう。さうさう。け。前。の。様
さうさう。入。さうさう。

三作の時。俗流。抄。して。さうさう。鬼。神。と。う。や。ま。ひ。て。宗。廟。の。れ。を。さうさう。繁。重。あり。け。般。の。せ。さうさう。さうさう。あ。い。せ。く
を。入。さうさう。弊。多。さうさう。あ。つ。故。は。般。人。尚。鬼。と。さうさう。ま。ま。い。て。さうさう
な。さうさう。や。ま。ひ。鬼。神。と。致。さうさう。三。代。の。王。の。さうさう。あ。さうさう。妖。と。い
と。さうさう。人。の。さうさう。と。さうさう。民。の。罪。義。さうさう。さうさう。や
さうさう。人。の。さうさう。子。孫。等。に。さうさう。さうさう。さうさう。案。我。の
必。不。親。於。天。子。賢。於。堯。舜。遠。考。さうさう。さうさう。一。端。あり。た。よ
の。後。儀。の。俗。世。の。不。愛。華。あり。さうさう。百。年。二。百。年。の。間。さうさう。の
かり。あり。改。名。堯。舜。さうさう。け。て。さうさう。世。の。間。は。さうさう。二。子。年。に
サ。の。間。流。れ。を。衰。ま。さうさう。さうさう。さうさう。法。範。の。一。篇。大。南
必。不。傳。り。あり。さうさう。國。の。初。は。箕。子。武。王。の。さうさう。さうさう。さうさう。

るへうくを大切の事と云ふたきふくひる事と云ふ人本支と云ふ
 能事人焉能事鬼未也。焉能知死。則そのあり。此説甚あ
 らど。た義の言いたふあ。い。子路のい。う。同とせう。い。い。り。け
 たま。い。あり。鬼神はま。い。て。感。意。あ。つ。う。同。う。あ。り。人
 事。あ。る。い。は。い。あ。う。い。何。し。て。鬼。神。は。ま。い。り。と。う。く。と。う。ま
 と。知。る。人。死。し。て。い。う。く。同。う。ふ。今日。人。生。の。な。ま。を。あ。い。何。し
 て。死。後。の。事。を。さ。る。く。の。ま。ふ。く。あり。そ。を。い。ふ。本。支。と。未。能。事
 人。焉。能。事。鬼。未。也。と。正。焉。能。知。死。と。別。ど。う。の。あり。生。の。ま。ふ。事。
 の。も。あり。生。存。の。生。あり。業。註。の。意。あ。る。人。の。あ。い。ま。う。の。い。ま。う。
 易。の。原。始。意。あり。た。義。の。意。あ。る。人。の。存。生。の。内。の。い。ま。う。
 の。中。庸。よ。い。ま。う。事。死。必。事。生。と。の。い。ま。う。一。生。の。内。の。い。ま。う。

は。い。ま。う。の。事。大。抵。聖。人。鬼。神。の。て。ふ。於。て。い。た。今。日。尚。然。の
 人。事。と。く。死。あ。る。の。こ。ま。い。鬼。神。の。有。と。感。意。の。い。ま。う。も
 を。説。め。人。の。あ。い。ま。う。と。い。て。死。昧。不。可。知。の。境。と。い。て。貴
 け。ら。る。の。い。ま。う。に。あ。た。ま。う。言。辭。の。表。は。彷彿。たり。又。嘗。て。曰。其
 禮。也。久。き。と。そ。を。又。志。う。り

三代の聖人。尚。鬼。神。と。た。ま。い。と。並。る。能。の。い。ま。う。禮。記。記。典
 の。中。に。あ。ら。う。周。禮。よ。し。人。並。人。の。職。あり。詩。記。よ。し。人。の。名。の
 あり。尚。ら。の。事。と。い。ま。う。その。い。ま。う。崇。信。の。お。か。り。へ。い。知。れ。る
 人。の。事。と。い。ま。う。い。ま。う。鬼。神。は。あ。い。ま。う。の。事。と。い。ま。う。書。記。洪
 範。七。終。の。事。と。並。る。の。事。と。い。ま。う。汝。則。後。龜。後。並。後。卿。士。後。
 庶。民。後。是。之。謂。大。同。と。君。民。上。下。は。い。ま。う。と。並。る。の。事

訓切字義跋

古學先生嘗著語孟字義
 廻伊洛之狂深疏洙泗之
 正派標字立條以便研究
 然學者舊深不除其講求

不精往之不免疑固故紹
述先生繼志述事重著
斯書而字義益以啓明其
以國字者蓋不啻欲易解
耳歎使夫世之少壯不力老

大徒悲者朝聞夕死而可
也歎扶翼世教黼黻聖經
至矣盡矣苟孰玩有得焉於
二書思過半勿以國字易
講而忽焉戊寅夏公美寓

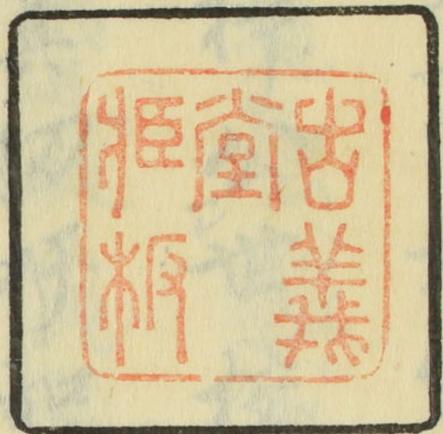
都下先生令嗣東所君將
 上梓公世校正始業使英紹
 終其功吁如英者豈敢校訂
 云乎但喜斯書啓迪學者
 謹督剞劂之事云爾

寶曆九年秋八月

後生西岡補口公英謹識



四寸類宋之入財



四方購求之人須

認此印為記若無

印者皆係偽刻

寶曆己卯冬十一月新刊

古義堂遺書目錄

發行

古義點四書白文

全五冊

古義點五經正文

全十一冊

仁齋先生著述

論語古義

十冊

孟子古義

七冊

中庸發揮

一冊

大學定本

一冊

童子問

三冊

語孟字義

二冊

古學先生文集

三冊

古學先生詩集

一冊

古學先生和歌集

一冊

易乾坤古義

一冊

春秋經傳通解

二冊

日札極論

一冊

文式

一冊

續近思錄鈔

一冊

古學先生行物行書

德必有隣 雲月雨施

東涯先生著述

大學定本釋義 二冊

中庸發揮標釋 二冊

童子問標釋 一冊

周易經異通解 十冊

制度通 十三冊

名物六帖 六冊

經史博論 四冊

辨疑錄 四冊

古學旨要 二冊

古今學變 三冊

經學文衡 三冊

刊謬正俗 一冊

釋親考 一冊

通書管見 一冊

唐官欽 三冊

歷代沿革圖鋪 一冊

復性辨 一冊

新助字考 二冊

官制

秉燭譚 五冊

學文關鍵 一冊

新用字格 四冊

勢遊志 三冊

紹述先生文集 二十冊

鄒魯大旨 二冊

訓切字義 八冊

紹述先生文集 二十冊

紹述先生詩集 十冊

孟字古義標註 二冊

讀孟字義標註 二冊

論語古義標註 二冊

周易傳義考異 九冊

讀易圖例 二冊

畢書集註標釋 六冊

周易義例卦變考 一冊

春秋胡傳辨疑 二冊

讀易私說 一冊

三奇一覽 一冊

名物六帖 七冊

文集附錄 一冊

己丑筆記 庚寅日錄 一冊

東涯漫筆 二冊

間居筆錄 三冊

聖語述 一冊

經史論苑 一冊

大極管見 一冊

帝王譜畧 四冊

本朝官制沿革圖考 六冊

天命或問 一冊

本朝官制

沿革圖考 六冊

後漢官制	一冊	三韓紀畧	二冊	朝鮮官職考	一冊
倭漢紀元錄	一冊	盍簪錄	四冊	盍簪餘錄	二冊
輜軒小錄	一冊				
先泚傳	一冊	詩經要領	二冊	佔俾漫鈔	一冊
集語鈔	一冊	古官	一冊	宮殿門考	一冊
宮室名號	一冊	閱史隨鈔	一冊	國事襍語	一冊
考古襍編	一冊	倭漢通信雜誌	一冊	朝鮮雜誌	一冊
鷄林軍記	五冊	朝鮮國語文字母	二冊	文體辨畧	一冊
雜雋手錄	一冊	肆言類雋	一冊	東續套語	一冊

尤氏熟語	一冊	須記詩選	一冊	明詩絕奇	一冊
東涯詩話	一冊	東涯談叢	一冊	姓林全書	二冊
五音五位訣十例	二冊	避諱書	一冊	異名考	一冊
朝野通載	三冊	同續集	三冊	同新集	一冊
當世詩林	一冊	同續編	一冊	同遺編	一冊
時英文雋	三冊	同續編	二冊		
東所先生著述					
古義抄翼	七冊	中庸發揮抄翼	一冊	詩解	十八冊
詩解名物	一冊	操觚字訣	十五冊	古學十論	一冊

本質雜論 一冊 譯林 五冊 譯原 三冊

助字考小解 二冊 四聲彙辨 五冊 集帖姓名 二冊

脩成先生文集十冊 脩成先生詩集 五冊

觀其文集 三冊 同類錄 一冊

當世結林 一冊 同類錄 一冊

醉醒錄 三冊 同類錄 一冊

生方此海 結林 一冊 同類錄 一冊

平安書肆

林權兵衛 一冊
林芳兵衛 一冊

